



編集・発行

大阪狭山市ボランティアセンター
大阪狭山市今熊1丁目85番地
TEL 072-367-6601
FAX 072-366-7407

さやまでわくわく！「わくフェス」開催決定！

「わくフェス」は、わくわく市民活動・ボランティアフェスティバルの愛称です。

主に大阪狭山市で活動している団体と関係機関が一緒になって企画や運営を行い、楽しいイベントを作り上げていきます。

各団体の持ち味を活かした様々な体験やパフォーマンスの他、模擬店や展示、ワークショップ等も予定しています。当日はどなたでも参加することができる楽しいボランティアの祭典です。「ボランティア」をする、しないにかかわらずみんなで「わくわく」を探しに来てください！

日 時：2020年3月8日（日）10:00～16:00

会 場：大阪狭山市立公民館

内 容：ステージ、模擬店、ワークショップ、展示、その他企画盛りだくさん！

主 催：大阪狭山市市民活動支援センター、大阪狭山市社会福祉協議会、大阪狭山市立公民館、大阪狭山市
※詳細は次号（2月号）で掲載します



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

知っていますか？SDGs

エスティージーズ



QRコードを読み取って
ページをフォローしてください♪

最近よく耳にするようになった「SDGs」。Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称です。下記のアイコンを目にしたこと増えてきたのではないでしょうか。

外務省のホームページには、SDGsについて以下のように記載があります。

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。（外務省ホームページより抜粋）

カラフルなアイコンで表された17のゴールについて、行政・企業・学校・個人等でも意識して取り組みをすすめて行く必要があるようです。ボランティア活動でも身近なことから進めて行きたいですね。



2030年に向けた
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

ちよこっとボランティアを始めてみませんか？ ～自分とまちを変えれるボランティアの力～

【大阪狭山市ボランティアセンターってどんなところ？】

ボランティア活動を希望する方とボランティア活動に来てほしい方をつなげたり、ボランティア活動の輪が広がるように交流会や講座等を行ったり、ボランティア活動に関する情報の提供や活動に関する相談をお受けしています。

ボランティア活動に関する様々な支援や取り組みを行っているのがボランティアセンターです。あなたにぴったりの活動がきっとあります！あなたの趣味や特技、想いをボランティアに活かしてみませんか？ボランティアセンターにお気軽にご相談ください。



【例ええばこんな活動があります】

- ・福祉施設等のイベントのお手伝い
- ・手芸や絵手紙、健康体操指導など趣味や特技を活かした活動
- ・調理や見守りなどの活動
- ・子ども達に関わり福祉教育を行う活動
- ・プルトップを集めて車いすに交換し寄贈する活動
- ・音楽演奏や踊り、マジックなどの芸能を披露する活動
- …その他様々な形の活動があります！

ボランティアグループの紹介

ボランティアセンターに登録しているグループを紹介します！

自助具の工房さやま

「自助具の工房さやま」は障がいのある方に健常者と同じ生活を送ってもらえるように手作り道具（自助具）を提供するボランティアグループです。

ここに記載する自助具は、最近製作したもので、ペットボトルなどを動かないように固定し、その蓋を開ける道具を紹介するものです。他にも様々な自助具を作っています。

【ペットボトルオープナー】



ペットボトルのキャップの開け閉めが簡単にできます。写真のようにキャップに被せて、手のひらを乗せ、左に回せば開き、右に回せば閉じます。当品はアクリル樹脂で軽くてどなたの手の平にもぴったり合い、清潔で形も色々あります。

【容器固定台】



ビン、ペットボトル等筒状の容器を固定し蓋を開け易くする器具です。容器を固定ガードに当て移動ガードでおさえ、レバーを右に回し止まる所で固定。容器が固定された事を確認し蓋を開けます。

自助具の作成等に関心のある方は是非一緒に活動しませんか。福祉センターさつき荘で活動していますので気軽に見学にきてください。お問い合わせは大阪狭山市ボランティアセンターまで。

夏のボランティアジュニアスクール 「防災レンジャー開催しました！」

8月31日（土）、福祉センターでボランティアジュニアスクール「防災レンジャー」が開催されました。今回は「優しい心でみんなを守れ！防災レンジャー」というタイトルで、翌日の9月1日の「防災の日」にちなんだプログラムとなりました。

市内の小学生10人の参加でしたがとても内容の濃い、実りのある1日となりました。

午前中は「さやまおりがみ倶楽部」による、新聞紙で食器づくり体験を全員で行い、続いて「メンズボランティア狭山」の指導による避難所等でふれあいを生むためのストロートンボや、ストローを利用した吹き笛を作成しました。

昼食は非常食のアルファ化米とレトルトカレーの調理をして、午前中に作った新聞紙の食器をビニール袋で覆ったものに盛りつけていただきました。



午後からの体験コーナーは…

「手話サークルさやま」⇒情報を伝えることの大切さを学び、耳が聞こえない、聞こえにくい人達にどんな方法で伝えるか等、耳栓を使って体験を行いました。

「傾聴さやま」⇒避難所で不安にしている人に、何が心配なのか、どう接していくのかをロールプレイを通して学びました。

「さやまおりがみ倶楽部」⇒地震が起きた直後、部屋の中にはガラスの破片や食器等の危険なものが散らばっていて危険であることや、避難所の出入りをする時、新聞紙で作ったスリッパがあれば衛生的にもよいということを学び、スリッパの作り方を教えてもらいました。

「つくしの会」⇒防災食作りの体験をし、いろいろな調理方法やアイディアがあることを教えてもらいました。実際にパッククッキングや溶けたアイスクリーム等を使ったおやつ作りの調理実習をしました。

災害はいつ起こるかわからないものです。子どもたちはまず自分の命を守ることと、お互いに助け合っていくことの大切さを学んでくれたかと思います。



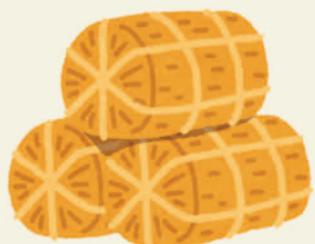
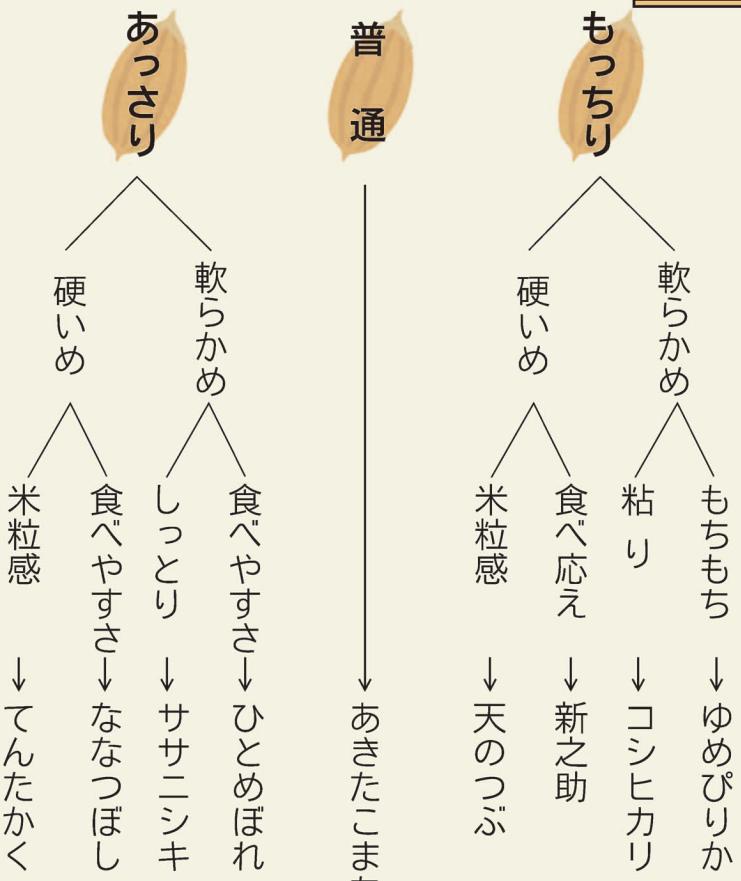
<取材：川島>

”米を巡る動き”



和を食す・・・米を知る・・・

私達が毎日食べているお米…。近ごろではおにぎりがコンビニなどで売られるようになりました。みなさんにお米のどんな炊きあがりがお好きですか。以前、新聞にお米の特徴が載っていましたので、銘柄の一例とともに紹介します。



重要な災害が起こる度に頻発する災害から身を守るために何が必要なのかを考えられます。こうした自然災害が起きたときに必要なのが自助、公助の三つが大切だと思います。自分で出来る日頃の備えこそが重要だと言わっていますが、楠田

編

集

後

記

ボランティアだより 編集委員募集中！

少ないメンバーですが、わきあいあいと楽しくボランティアの活動を発信する広報紙を作っています。日頃、ボランティア活動をされているあなた、広報紙づくりに興味のあるあなた、一緒にボランティアだよりを作りませんか？お問い合わせはボランティアセンターまで。